

Raffiné Journal vol.08

一步の深さ 一前へ進めるのは、
過去が終わったとき

Raffiné

ほんとうの一步は、
足を前に出すことではない。

迷いの終わりを静かに受け入れ、
心が未来と結ばれるとき、
一步は “深さ” を持つ。

片足が前に進むのは、
“未来を決めたとき”

両足が前に進むのは、
“過去が終わったとき”

—— 未来は、静かな覚悟から始まる。

前へ進みたいと思っても、
最初に動くのはいつも“片足”だけだ。

未来へ向かう気持ちはあるのに、
もう片方の足はまだ、
過去のどこかに触れたまま。

まだ終わっていない感情。
まだ手放せていない記憶。
まだ整理できていない思い。

進めない理由の多くは、
未来ではなく過去の余韻にある。

両足がそろうのは、
強い意志を持ったときではない。

過去に小さな区切りが生まれたとき。

その瞬間から、一步は静かに前へ動き始める。

未来を選んだつもりでも、
ふとよぎる後悔や迷いが、
足を止めることがある。

前へ出た片足と、
動けないままの片足。

その“揺らぎ”の時間こそ、
心が整えられていく途中なのだ。

“もう戻れない”と感じた瞬間がある。

それは泣いた夜かもしれないし、
静かに受け入れた朝かもしれない。

過去は、忘れることで終わるのではない。
納得されたとき、静かに終わっていく。

その区切りが生まれた瞬間、
片足は自然と、もう片方へ揃っていく。

両足が揃ったとき、
そこが新しい「出発点」になる。

選び直す必要がなくなる。
振り返る必要もなくなる。

立ち上がるとは、
単に未来へ進むことではない。

いまここに至るまでのすべてを
自分のものとして抱きしめること。

覚悟は、両足が揃う
“静かな瞬間” に生まれる。

未来へ進む力は、
意志の強さから生まれるのではない。

過去が、静かに終わったとき。

そこから歩みは軽くなり、
前へ進むという行為に、
重さがなくなる。

片足の未来。
両足の覚悟。

その差が、人生の方向を変えていく。



進んだ分だけ、
未来は静かに形を帯びる——



R.

Raffiné Journal — vol.08

著者：美学思想家 古川玲奈

発行：Raffiné

2026